



団だより

今 春の大卒者の就職率は、多くの企業が不況期特有の「厳選採用」策を採っていることもあり、「就職氷河期」と云われた十年前に次ぐ厳しい状況でした。就職活動の早期化にもますます拍車がかかり、この秋も、すでにネット上には再来年の就職情報サイトが続々と開設され、年明けには企業の説明会を駆け回る日々が始まります。また、大学の授業もそこそこに、専門学校に通って就職に有利な資格取得に励む学生も少なくないといえます。まさに、大学生活は「就活一色」といっても過言ではありません。

そもそも大学とは、義務教育と高校教育を了えた者が、更に高度な「学問」をある程度の時間を掛けてしっかりと修めるために設けられている場です。と、同時にこの時期は、人生の中でほとんど唯一と云ってよい「自由な季節」であり、多少脱線しながらも、様々な人と出会い多様な価値観に接することで、「人生の意味」などをじっくりと考えたりすることが許される時であったはずで

しかし、現在の世相は、大学をして「学問の府」や「人生を模索する場」などではなく、単なる「就職予備校」に変質させてしまいました。厳しい就職戦線を潜り抜けた「勝者」でも、就職後3年以内にその3割以上が仕事を辞めてしまうという事実は、何とも示唆的です。「貧弱で壊れやすい帆柱や舵、コンパスすら備えていない船で、港を出るなり難破して当てもなく漂っている」沢山のユースたちの姿がそこにあります。

先行き不透明な現代社会を生き抜くために必要なものは、出身校のネームバリューや面接のテクニック、机上の学習で取得出来るライセンスではありません。それ以前に、自立した一人の人間として気力・体力と知恵を身につけ、「自分は人間として何を成し遂げたいのか?」と云う「人生の指針」を持つことではないでしょうか。

● 省みて、B-P脚がスカウト運動を創始した100年前の英国の状況を想起します。「日の沈むことのない」と云われた大英帝国は世界の首座から陥落し、経済的な行き詰まりと高い失業率が、社会全般に救



「人間力」を育むスカウティングを!

団委員長 當麻洋一

いがたい閉塞感を蔓延させていました。ことに、国の将来を担うべき青少年のこのころの荒みは著しいものがあったといえます。この状況に対する強い危機感が、軍人として栄光の地位にあったB-P脚をしてスカウト教育法を発意させ、不安と枯渇感にさいなまれていた多くのユースに、「人生の目的」を示すことになるのです。

スカウティングは、大自然の中で冒険的なプログラムを楽しみながら、知らず知らずのうちに健康な心と身体を養い、社会生活を営むのに必要な知識や技能を身につけて、青少年を「自分の目で見て・自分の耳で聞き・自分の頭で判断して、実際に行動できる」よき成人へと導くことを目的としています。自分の人生を自ら力でしっかりと拓くことのできる「人間力」を育む。これこそが、「スカウト運動は幸福な人生への道」といわれる所

以にほかなりません。

現在の子どもたちにとって、様々な興味や関心を満足させるクラブや習い事は数多あり、学習成績を上げるための塾通いなどは避けては通れないかも知れません。しかし、そういった短期的な目標・効果のためではなく、人生を意味あるものとする「人間形成の道」として、今こそスカウト運動の価値が再認識されるべき時を迎えていると、私たちは確信しています。

● 記録的な酷暑の夏が過ぎ、爽やかな風とともに実りの季節を迎えています。秋は、夏季キャンプを年間活動のハイライトとしている本団にとって、新しい一年のスタートラインです。スカウトも成人も心ころを新たに、活動を存分に楽しみながら、それぞれの「人間力」をしっかり磨いて行きたいと思えます。

キャンプに参加して

◎日時：2010年8月22日
◎場所：山梨県立なかとみ青少年自然の里

連れて来て良かった……

隊長 守田智恵

集合してから、電車を乗り継ぎ約4時間半の往路。猿や猪が出るかも知れない自然豊かなキャンプ場で過ごす時間を楽しみに想いながら、「電車の中で何をして楽しく過ごすか」が私の悩みでした。

が、キャンプ場までの45駅ごらく、延々と続かしりとり、線路線路迷路なるものを嬉々として描き上げて楽しむ……等等など、その場を楽しもう！というスカウト自身の積極性と保護者のご協力もあって、元氣一杯のまま到着できました。

ローパー隊が企画してくれた合同プログラムでは、カブスカウトやボーイスカウトが上手く褒めて盛り上げてくれて、とても微笑ましかったです。

ボーイスカウトのキャンプファイヤーは、初めての体験でしたね。手足を振り回して笑い踊っている様子を見て、私はようやくホッと、連れて来て良かったなあと思

ました。
水着を持ってくるようにしていれば思い切り水遊びが出来たのにか、保護者の方にはもっと他隊指導者との交流を持つ機会を設けるべきだったとか、反省することが色々あります。遠方にも関わらず参加して下さいました事がスカウトの積極性をさらに伸ばしていく事と信じています。
ご協力下さいました皆様に心から感謝いたします。



盛り上がった合同キャンプ

副長 福村吾郎

3コ団合同のキャンプとあって、スカウト・リーダーともに大勢で楽しむことができ、とても良かった

です。後半日程のみの参加となりましたが、合同プロ・大営火をみんなで盛り上げることが出来て本当に嬉しかったです。



キャンプ
はじめてのキャンプにさんかした。キャンプしようにフ
くとまおきいスカウトたちがいはいした。おにさんたちと
すごろくゲームをした。ゆうしょうしてうれしかった。よるファイヤ
でこつけんした。アモーはいたのしかたのいはいきい川と
おしいがあてをここにくりのいがいをりょうたうスカウトとなんども
ながしつづけてことでした。またゆきたいです
なかとみこういけり
他の団体のスカウトと一緒に
活動が出来たことが良かった
けり園子



キャンプのおもいで
はくはびーバーたいに
はいてはじめてのキャ
プでした。たのしかたは、も
キャンプファイヤーの歌
です。キノコハウスも
ありました。ちいさい川
があてをここにくりのいがい
をながしてくりのいがい
をしました。たのしかたです。
まももりうたさう

キャンプの思い出

◎日時：2010年8月20日～23日
◎場所：山梨県立なかとみ青少年自然の里

混成隊として初めてのキャンプ

5団隊長 **新井克基**

今回のキャンプは、今期より取り組みを始めた鎌倉5団&7団の混成カブ隊として3泊4日、更に鎌倉5団・7団・8団の合同開催となった。

野外炊事では、「まいぎり式火起こし」にチャレンジしたが、あと一歩という所で疲労からいくども振り出しに戻り、時間延長の末、神様マッチの世話になった。三ツ星スカウトシェフは、かくし味(焼肉のたれ・ソース・チーズ・ケチャップ・コーヒー)も各組で選択し、世界で一つの特異なカレーを煮込み、苦味・甘み・こげと色々盛り上がりを見せた夕食であった。

富士見山ハイキングでは、急勾配昇りに途中下山も想定していたが、非常食の燃料補給もあって全員が登頂。テーマ「体力の限界にちょうせん」を達成した。山頂は雲で視界が悪かったが、みんなのすがすがしい顔ぶれが今も記憶に残っている。

振り返ると、混成隊として駆け足の1年であったが楽しく活発に過ごせたこと

は、皆様のご協力があったことと思います。保護者の皆様、リーダーの皆様、ありがとうございました。今後とも、末永い期間にわたってのご協力をお願いします。



夏のキャンプを終えて

5団副長 **菊地洋二**

待ちに待った夏のキャンプ! 今回の目玉は2日目のハイキング!! なんと、活動の中で、一番高い山に登ることでした。下見にきた時に、足を痛めた苦しい経験をしたこともあり、スカウトの前に、自分自身が歩けるか? という不安いっぱいだった。

バス停横の登山道入口が、なんともいえず不安な気持ちで登り始めました。スカウトを励ます言葉は、自分を励ます意味もあったのでした。展望台の一番乗りとは、一時間半もあいたけど、全員で登ることができたのは、本当に素晴らしかったです。良い思い出が作れました。夏キャンプにきて、毎回感じることは、一年間の活動を通じて、着実に成長していることです。スカウト達の成長するスピードはそれぞれですが、歩けなかったのが、一人で頑張って歩けるようになったり、スカウト同士、協力しながらやり遂げたりと、夏キャンプで、スカウト達の成長や頑張り

いつも驚き気づかされます。今回、1640メートルの山に登れた頑張りや自身を、みんなの宝物にして欲しいと思います。全員で登頂やったね。

あと、初日の火起こしは、あともう少しで火が点きそうだっただけに、残念でした。でも同じ材料で作ったのに、味が差がでるのは本当に不思議でした。それぞれ個性的な味でした。お腹いっぱいになりました。

また陶芸では、いろんな形の作品が出来上がり、スカウト達の感性の豊かさに触れることができました。

ちょうちんの暗夜行路では、普段経験しない街灯のない夜道を歩き、闇を感じることができたと思います。

営火では、月夜の下、団スカウト全員で炎を見ながら過ごした時間も、良い思い出になったことでしょう。1組の「幸せなら手をたたこう」替えバージョンも良かった!! 2組の「ゴキブリホイ!!」も面白かったよ。

夏キャンプは、スカウト達に一生に一度の楽しい思い出をプレゼントしてくれますが、そのスカウト達と一緒に過ごし、同じ体験をすることができ、リーダーにとっても、貴重な、そして大切な時間を過ごすことができる場として、大事な活動だと思います。

最後に日頃の活動、そして今回のキャンプ準備、運営にたずさわった方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

さあ、スカウト諸君、活動はまだ続きます。夏のキャンプは通過点なので、もっと元気いっぱい楽しく明るく活動しよう!! 君たちには、無限の可能性があるのだから……。



キャンプの思い出

5団副長 **村田隆一**

今年のキャンプは3日目からの参加となりました。スカウト達の陶芸の発表では、いろいろなアイデアを目にし、陶芸イコル器というイメージが変わりました。

午後からの合同プログラムでは、スカウト達といっしょにポイントを回りました。短い移動でも汗が噴き出してきました。このことを考えると、前日のスカウト達の頑張りや目に浮かんできます。そんな活動の疲れも見せず歩いている姿にこの一年の成果が表れていると思われま

す。ポイントでのクイズでは、自分達が宿泊しているスペースキャビンについての問題で、身近なものに対する記憶の正確さについて考えさせられました。すべてのポイントを回れなかったもののスカウト達は楽しんで活動していました。

夜のキャンプファイヤーでは、たいまつを持ったスカウト達は、誇らしげに入場し、みごとに点火役を務めました。エールマスターの進行で、天候にも恵まれ、時間の過ぎるのも忘れるような思い出の

夜となったことでしょう。スタントの練習で築かれた絆は、本番でも崩れず、他のスカウト、リーダーを楽しませてくれた。

このキャンプで得たものは、一生の宝となる友達と体力の限界に挑戦し、成し遂げたことへの満足感と自信へと繋がっていくことでしょう。

2010年夏キャンプ

1組デンリーダー **笹沼武志**

キャンプのテーマは、「体力のげんかいかいちょうせん」。3泊4日のキャンプは、プログラムが盛りだくさんですが、メインイベントは、1,640mの富士見山に登るハイキングです。

標高差約1,000mに登るこのハイキングコースは、急斜面の連続で鎖場もある難コースです。全員が山頂に到達することは、ちょっと無理かも、と思っていましたが、「足が痛い」「おなか痛い」「頭が痛い」「うちに帰りたい!」とぼやくスカウトたちを、おだてて、なだめて、おどかしながら、全員がそろって登頂に成功し

ました。晴れわたった山頂で、自分でかっできたお弁当とおやつを食べれば、途上の苦難も吹き飛びます。正面にそびえ立っているはずの富士山は、あいにく雲に包まれていましたが、スカウトたちの心には、最高記録1,640mがしっかりと刻まれました。

文字通り「体力のげんかいかいちょうせん」したハイキングでしたが、スカウトたちはすぐに次の「げんかいかい」にチャレンジしてくれることでしょう。2010年の暑い夏でした。



夏の村のキャンプ

1組 浦山 保

8月19日にボーイスカウトの第5団と7団と、8団といっしょにキャンプに行きました。

場所は、山梨県南巨摩郡身延町平須306の山梨県立なかとみ青少年自然の里、というところに泊まりました。

泊数は3泊4日です。

ほくたちが泊まった所は、スペースキャビンというキノコみたいな所で、シュラフをしいておきました。

2日目は、ハイキングです。登る場所は富士見山で、標高1,640メートルもあります。山の中は、ハエやかが、けっこういました。だい2作業小屋から自分達のペースで登りました。ゆうまとささぬまデンリーダーが先に行って、その後の6人は、山内隊長について行きました。頂上はとてもきれいだったけど、ざんねんながら、富士山は見えませんでした。

3日目は、午前中にとう芸をやりました。形は電車では空どうになっている、物

を作りました。

午後には、キャンプファイアをやりました。くまスカウトは、キャンプファイアの火をつける係りでした。キャンプファイアは、いろんな歌や、おどりをおどったりして、楽しかったです。

4日目は、いよいよ、最終日です。いままでのことが楽しく感じられます。とても楽しかったです。



夏の村のキャンプ

1組 笠原剛綺

8月20日に、カブスカウトの第5団と第7団で夏の村のキャンプに行きました。キャンプをする所の名前は、山梨県立なかとみ青少年自然の里です。龍口寺入口入場に、7時30分に集合しました。貸切バスに乗って行きました。

西湘バイパスからは、相がみわんが見えました。静岡県に入って足がらパーキングエリアでトイレきゅうけいをしてから少しはしたら山梨県に入りました。山梨県の道の駅で少し休んで1時間くらいたってやっとなかとみ青少年自然の里に着きました。バスをおりたらサルよけのきかいがドカーンと鳴ってびっくりしました。車でキャンプ場まで行きました。夜、カレーを食べました。おいしかったです。その後、あんやこうろをしましたちようちんをてらしても全ぜんみえませんでした。

8月21日に、1,640mの山にのぼりました。9時に出発して富士見山登山口まで歩きました。着いたのが9時30分でした。登山口を出発して山小屋に着いたのが9時56分でした。また歩いて次の山小屋についておやつを食べました。少し歩いたら1,000mでした。だんだん坂が急になって来てつかれてきました。

1,500mから山ちようが見えました。1,639mのてんぼう台に着いた時は、すごくうれしかったです。富士山は、見えませんでした。そして、みんなで写真を撮りました。くだり坂は、らくだったけれど足がいたくなりました。

8月22日に、とうげいをしました。葉っぱのお皿を作りました。午後になってボーイたいとビーバーたいとキャンプファイヤーをやりました1組のだしものは、幸せなら手をたたこうをやりました。みんなで歌ったりおどったりしました。月がきれいに見えました。

くまスカウトがボーイスカウトのテントに、いってしまったのでシカが3人しかいなくなったので2組といっしょにねました。朝になってにもつをおろしてへやのそうじをしました。



2010/8/22

楽しかったキャンプ

2組 笹沼 薫

ほくは8月20日～23日までキャンプ場にとまりました。

初日は、川にくりを流したりして遊びました。初日の夜は、自分たちでカレーのルーとかを作りました。深夜はUNOをやりました。

2日目の朝は、食堂で朝食を食べました。その次に、ハイキングで1,640mの山をのぼりました。1番さいしょに山ちようについたのはゆうまで、その次にみんな

山ちようにつきました。その次におべんとうをたべてキャンプ場にもどり、食堂で夕食を食べてお風呂に入り夜にUNOをしておきました。

3日目は、おきたときに足がいたかったです。朝食を食べ、セレモニーをやり、スゴクハイクをやって、午後はキャンプファイヤーをしました。そしていろいろな歌をうたったりおどったりしてすごく楽しかったです。

夏の村のキャンプ

2組 声澤優真

ほくは8月20日～8月23日までにキャンプに行きました。キャンプ場がある県は山梨県で、名前は山梨県立なかとみ青少年自然の里という場所に行きました。

キャンプ場に、着いたときに、一番ビックリしたのは、バスからおりたしゅん間「ドカーン。ドーン」と言う音が聞こえたからです。この音は、りょう師さんが、鉄ぼうをうっている音でした。なぜ鉄ぼうをうっていたかという、サルが、作物をあらしたり、イノシシなどが作物をだめにしてしまうので、音でおどかさないようにしているのです。他にも作物を守りたいさくがありました。そのたいさくは、作物がある場所の周りに、鉄のさくやあみを接置してそれに、なんと、電気を流して、さわると、感電してしまうという物です。なので、そんなにサルや、イノシシは、寄って来ません。

次に、ほく達2組のメンバーが泊まる場所に向かいました。

ほく達が泊まる場所は、上の方だったのですこしきつかったです。ほく達が泊まる場所は、スペースキャビンという場所



で、こんな感じでした。屋根は、三角形で形は、キノコみたいでした。ほく達2組は、キャンプ中3人だけだったので、すごく広くつかえました。

1日目の中で一番おもしろかったのは、夜ご飯を作る時です。夜ご飯は、カレーでした。かくし味で、粉チーズ、ケチャップ、焼肉のタレを入れました。すごく美味しかったです。

2日目は、ハイキングに行きました。その山の名前は、富士見山です。ひょう高は、1600メートルでした。まずは、みんなでいっしょに行って、第2小屋からは、自分のペースで行くことになりました。ほくは、笹沼デンリーといっしょに、先頭を歩きました。ペースは、ものすごく速くして、ずっと歩きました。そして休けいは、何メートルかが書いてある、かん板ごとに休けいしました。

そして、すごくがんばって、苦しくて、辛かったけれど、やっとの思いで、1,390(1,400)メートルにたどりつきました。そし

ててん望台で、見た風景は、すごくきれいでした。けれど、富士山には雲がかかっている、富士山は見えませんでした。少しざんねんでした。

3日目は、キャンプファイアがありました。キャンプファイアをやった場所は、スペースキャビンの少し下の営火場でやりました。ほく達の出し物は、ゴキブリホイをやりました。すごく楽しかったです。

4日目は、3日目の夜からくまスカウトだけ、ボーイのテントに泊まりました。ボーイの人達から、今まで知らなかったことを色々おしえてもらいました。楽しかったです。



最高のキャンプ

2組 新井隆也

ほくは、3ばく4日のキャンプに行きました。

バスの中で、とてもたいくつでした。でもついてスペースキャビンという名前の建物に入りました。

たまに、ペンと大きなじゅうの音がしました。作物のまわりには、さわるとかん電するひもがあつてやばかったです。

水車もあつて中は、木がぐるぐるまわっていました。

2日目の山登りはとてもきつかったです。山の名前は、ふじ見山と言う山でした。山の高さは、約1,640mで、山がとても急な坂で、がけがたくさんありました。ちよう上で、おべんとうと、かんづめを食べました。しばらくしてかんづめの中を見たら、アリがはいて死んでいました。それを出して食べました。夜は、スペースキャビンでねました。

スペースキャビンの形は、こんな形でした。ですので中で、あばれるととてもゆれました。

3日目は、午前

わんを作りました。ほくのちゃんわんは、バットやボールがまわりについていて、でこぼこしていました。ほくのちゃんわんの形は、このようにでっぽりがありました。焼いたりするのでちゃんわんがとどくのは、ちようどほくのたん生日ごろでうれしかったです。



午後はすごろくハイクをしました。ほくは1回サイコロをころがして一番いい「3」が出ました。とてもよかったです。

あまりたくさんふってしまって、けっかはどうかと思ったら、ビリでした。けい品は、ビスコ二つでしたくやしかったです。

その後キャンプファイヤーでほくは、くまスカウトなので4人でころばないように木に火をもってきてつけました。スタンプは、キャンプだほいかえ歌のゴキブリほいを歌いました。無事に終りょうして、ねる時は、ボーイ隊のテントにとまりました。とてもあつかったけど朝は、さむくて温度変化がすごかったです。でもボーイ隊の人は、すごくやさしくてよかったです。キャンプは、とてもたのしく虫のこえなどがきこえてとてもよかったです。



夏キャンプを終えて

◎日時：2010年8月19日～23日
◎場所：山梨県立なかとみ青少年自然の里

パワー全開 笹竜胆隊 夏キャンプ 5団隊長 佐々木孝文

先ず、夏キャンプに5団隊長として全日程参加出来なかったのは非常に残念であった。

しかし今年は混一成隊での夏キャンプ。7団の中井隊長を筆頭に、8団の宇都宮隊長、5団・鈴木副長が全日程で奉仕。またRS隊や団委員の方々など多くの方に協力していただいたおかげで素晴らしいキャンプが達成できたことを改めて感謝いたします。

キャンプ内容としては初日から天候にあまり恵まれておらず、1年目のスカウトが多い中設営や食事に苦勞していた様です。しかし、あえて言うならこれもボーイスカウト活動！この反省を次回キャンプで改善していくことも勉強の一つと想って欲しい。

私が参加したのはキャンプ3日目であり、夜更けに途中参加のスカウトと指導者と共に到着。こんな夜更けなのに、ヘッドライトに映るものは初日から参加していたスカウト諸君。お出迎え？と思いきや、どうやら非常呼集で時間に合わせて集合していた模様。あえて、お出迎えありがとう。

日が昇ってからは予定していた登山を中止して(それなりの理由の為)キャンプ場で提供されている「絵地図ハイク」に+aでゲームや観察を取り入れたハイク。安全面でのフォローなど検討し到着時刻を予想してみたが、思った以上に……。今年度はハイキングが少なすぎて体力がないな～と言った反省ポイントが見つかりました。

夕食はリーダー、スカウト分けずにBS隊全体での料理コンテスト！競い合うのはリーダーのカレー。スカウトのワンタンスープと牛丼。食後には全員が投票し、結果優勝はリーダーのカレーライス。しかし投票数には大きな差もなく僅差でした。皆、料理の腕は自慢できるぞ！

翌日はこの夏キャンプでのメインプログラムでもある「ラフティング」。キャンプ場からおりた目の前に流れる富士川で行いました。さすがにリーダーのラフティングスキルはないため、富士川倶楽部で提供されるアドベンチャープログラムに参



加。安全教育とラフティングで約3時間のプログラム。私は敢えて活動記録班と称した写真係を担当。素直にゴムボートで川を下るだけかと思いきや、川の各ポイントで高所からの飛び込みやゴムボートの周りに全員が手をつないで落ちないように息を合わせて立つゲーム「フラワー」等々で中々下ってこない。

当日は猛暑の為、写真班としては水分補給が欠かせない状態でしたが、写真に映るスカウトは満面の笑みでまさに「パワー全開！」。夏キャンプだけでなく、夏休みの大きな思い出になったことでしょう。素晴らしいプログラムを提供していただいた富士川倶楽部のスタッフの方々に感謝します。

ラフティング後は団全体でのプログラム。BVS、CS、BSで縦割りの班を作り、RS隊で前日はほぼ一睡もせず検討されたプログラムをスカウト達は皆楽しみ、BSスカウトも各班のリーダーとして十分役目を果たしていたことと思います。

夕食後は全体での大営火。街灯もない真っ暗な山のキャンプ場。市街地を走る車のエンジン音ひとつ聞こえない。晴天に恵まれ空には無数の星。あたりを照らすは営火のみ。これ以上の営火はないのではと思うほど素晴らしいものでした。

BS ボーイスカウト隊



夏キャンプの思い出 ホワイトベアー班 守田 渉

僕が、一番夏キャンプの時に楽しかったのは、ラフティングです。最初、川辺についた時、ゆるやかな川が流れていたの、「簡単そうだな」と思っていました。ガイドさんの説明が終わって練習すると、オールに水の重さがかかって、予想以上にこぐのが難しかったです。出発してすぐに、班長さん達が川にとびこんだので僕もとびこんだら、僕の身長より深かったの、びっくりしました。「少し進んだだけなのにこんなに深くなるんだなあ」と思いました。とびこめスポットについたとき、とびこむ所が思った以上に高く怖くて1回しかとびこみませんでした。みんなはポーズをして何回もとびこんでいたので「すごいなあ」と思いました。流れの強いところが見えてくると、僕はせんとうにすわ

ってみました。いきおいよく岩にあたっただんどうにたえきれなくて川に落ちるかと思いました。なんとかロープをつかんでうしろにたおれて助かったけど、自然の力ってすごいなあと思いました。

夏キャンプ ホワイトベアー班 木村海生

夏キャンプで一番の思い出は、4日目。なんと一番楽しみにしていたラフティングがあったからだ。ボートに乗って川を下る。ゆらゆらゆらゆら、冷たい水もかかってきて、落とされたり、飛びこんだり、そして、流されたり、どれもほとんど初めての体験だったから、心臓がバクバクになった。そして、ずっとラフティングをしたいという想いが心の中に現れた。

4日目は、楽しい事がまだまだある。それはビーバースカウトたちとのすごろくハイクだ。サイコロをふり、でた目の数だけリーダーをとばして進み、止まった所のリーダーたちの用意したゲームをして、どん

どん進んでいく。サイコロをふるのをビーバースカウトにまかせたら、サイコロの目は最大の3ばかり出て、見ごとに1位になった！ビーバースカウトに感謝!!でも、ふうせんのゲームには苦戦したな……。

そして、4日目最後のイベント、キャンプファイヤー。いろいろな隊やいろいろな班のスタンツが楽しみな。自分たちホワイトベアー班は「つばさをください」という歌を歌った。少しきんちょうしたけど、歌っていると楽しくなってきた。カブ隊やビーバースカウトたちの歌も上手だったな。

この4日目は、なんだかキャンプに行ってきたと思うことが一番出た日だった。

はじめてのキャンプ

ホワイトベアー班 藤澤 憲

ぼくは、ボーイスカウトからはじめてカブはどんなか知らないけど、やっぱりボーイスカウトがうえなんだと思います。

今回の夏キャンでは、ボーイが5日、カブが4日、ビーバーが2日というようにわかれたし、ボーイはテントでねたけど、カブとかはへやみたいな所でねていたの、ボーイはすごいと思います。

キャンプ場は山梨県にいきました。今回はハイキングや川くだりなどをやるときいていたけど、とくに川くだりが楽しかったです。

でも川下りは4日目だったので、それまでが大変でした。ごはんを作ったり、かたづけをしたり、何回も時間がすぎてしまったり、自分のテントがある場所と下の場所をいききしたりして、足の裏が痛くなったりして大変だったけど、みんなと協力してできたりしてよかったです。

ボーイ、カブ、ビーバーでいっしょにやるイベントでは、サイコロハイキングというハイキングをしました。3チームにわかれてやったけど、むずかしいクイズとかがあって、わからないものとかあったけど、カブたちが答えてくれたりして、協力しながらできてよかったです。ぼくはボーイからはいて、カブの人たちやカブのたい長たちをしらないので、こうやってカブたちといっしょにやったりして仲よくなっていきたいです。

ついに4日目の川くだりがきました。すごく楽しかったです。とてもうれしかったです。2～3時間もやっていたのに、すごくあつというまにおわってしまいました。でも、たまには、楽しいことがあって

おもしろいです。つらいことがたくさんあったし、時間がまもれなかったりしたけど、楽しいことやカブたちとのいっしょにやるぎょうじなどがあるとおもしろかったです。これからも班の人たちと協力して、キャンプなどをしていきたいです。

B S

夏キャン

ブレイブボーイ班 守田なつみ

今年の夏キャンは、いろいろな事に驚いた。

まず、人数の少なさに、びっくりだ。私は遅れて航洋とキャンプ場にきたが、自分の班の班員は、なんと2人!! いくらなんでもベアー2人で夏キャン初日を過ごしていたなんて……。初めての夏キャンなのに、大変だったろうなあ。でも、ローバー隊の方達に、立ち釜作りなどを詳しく教えてもらえて、2人にとっては、良い経験になったんじゃないかな!? テントの中に置かれていた、処理しきれていない生ゴミ達にも衝撃を受けたしまったけど……。ゴミはしっかり片付けよう。やっぱりそれが一番だ。何事も、後回しにしないことが大切だ。

翌朝、ハイキングに持って行くお弁当の代わりとして、朝食作りと同時進行で、おにぎりを作った。4人なので、米は4合(おにぎりの分を含めて)という事になった。おにぎりの具として、たくあんと梅干しが支給された。が……。ここで、仰天した。梅干しの量がハンパないのだ。ざつ

と20個近くの梅が、バックの中に敷き詰められている。あまりにも量があるので、おにぎりだけでは使いきれず、私は時々1人で、梅干しをしゃぶったり、班員にくばったりしていた。

書きたい事を全部書くと、きっと原稿用紙10枚分にもなってしまうだろう。だから次で最後とする。

それはラリーの後の出来事だった。サイトに帰って来たとき、私は見てしまった……。最終日、前日……。まさかの立ち釜、崩壊!! とりあえず、急いで修復を試みる。案外簡単に、立ち釜はすぐに元の姿に戻った。しかし、キャンプ場にかまどがあるにも関わらず、どうして立ち釜を作る必要があるのだろうか。その場にあるものを活かしたほうが私はよいと思うが……。

なんだかんだ言って……。やはりキャンプはおもしろい。1日の中の一つひとつが、いろんな体験と衝撃でいっぱいだ。いつもより、脳が刺激される。また、普段の生活の便利さから、一時的に離れることによって、いつも自分がどれだけ楽をして生きていたかが、身に染みて感じられる。自然と、それに対して感謝の心が芽生えてくる。いつも、この環境で生きていけるというのは、素晴らしい、とてもありがたい事なのだ。こういう事を考えさせられる、これもボーイスカウト活動のキャンプの魅力の一つである。

追伸——今回、腰痛で多くの人に大変迷惑をかけてしまったので、来年は積極的に活動に取り組めるよう、体を大切に、汚名返上できるよう頑張りたいと思います。



一年を振り返って

感想

ホワイトベアー班 芦澤拓海

今年のぼくの活動は中学校の部活と学校でなかなか参加できませんでした。

一泊舎営などのときは土曜日の通常授業があるため、最初から活動に参加することができず、おくれで参加しました。

夏のキャンプもでたかったのですが、学校のキャンプと重なり、行くことができ

なかったのととても残念でした。

それでもボーイスカウトの活動は楽しくてやめられません。

なので、来年はできるだけ多くの活動に参加して、ボーイスカウトの活動を楽しみたいです。

一年間をふりかえって

ホワイトベアー班 佐々木駿太

今年のボーイスカウトは、部活や色々なことがあって、15NJにも行けませんでした。それだけではなく、夏キャンにも行けず、ボーイの日曜日の活動にもまともにでれませんでした。なので、藤澤や木村がどうい

ふうがんばっているかはわかりませんが、PPとしてちゃんと働いていると思います。しかし、自分がPPの先輩としてちゃんとめんどろをみてやれないことがすこしざんねんに思います。だから次、来年には自分で工夫して5分でも10分でもボーイの活動にいけるようにして、すこしでもまた新しく入ってくるスカウトたちをささえていけたらいいと思います。そして、みんなが一人ひとりちゃんとスキルアップして、1回1回の活動がむだにならないようにしてほしいです。あと、とれるターゲットパッチマスターパッチは、自分でどれがとれて、どれがとれないと言うこともちゃんとあくしておきましょう。

印象に残った活動

ブレイブボーイ班 川村亮太

ぼくがボーイスカウトで一番印象に残った活動は、カントリー大作戦です。

なぜかという、ぼくは江ノ島の海岸に残った活動は、カントリー大作戦です。なぜかという、ぼくは江ノ島の海岸が、あんなにも汚れているとは思っていませんでした。

そのゴミの中には、テレビのような電化製品や、外国のペットボトルなどもありました。しかも、それらがあまりにもたくさん、砂浜につんであったのです。

だから、カンとビン、ペットボトルをみんなで集めることになりました。

拾ったものの中には、中身が残っていたり、花火をやった後のゴミとかが入っていたりしてたいへんでした。

この3つの中ではペットボトルが一番多かったです。



2010 夏遠征

◎日時：2010年7月18日～22日

◎場所：伊豆大島

◎参加者：上野詩歩 山下 耕

◎目的：過酷な環境下での生活を体験して普段の文明的生活を見つめなおす

◎目標：伊豆大島と三原山を移動野営で踏破する

1日目

藤沢に集合、見送りが誰もいないさびしい出発であった。おそらくそのせい？お陰？で5日間晴れが続いたのだと思う。熱海駅についてから今回の旅始めの試練が到来。フェリーの出港に間に合わせるために走った。汗びしょりになりながらもなんとか乗船。あっという間に大島についた。

上陸した私たちの目にまず映ったのは、大きくそびえる三原山と見渡す限りの澄んだ海。ゆったりと景色を楽しみたかったが、この日の計画は登山である。食料の調達を済ませ、いざ三原山へ！

原生林のような森の中を掻き分け頂上のカルデラになんとかたどりついたが、いきなりの雨。結局、頂上はガスの中で何も景色は見えなかった。下山は、その場で知り合ったボーイスカウト出身の方の車にご好意で乗せていただいた。なんと楽なことか。

この日の宿は海沿いのあずまやに定めた。地元の方に食材を分けてもらったりと、初日は本当に運がよかった。波の音を聞きながら就寝。星空が本当にきれいだった。

▶徒歩移動距離 18km

2日目

大島公園を目指し出発。島を海岸沿いに行くその様は「電波少年」の世界。延々と道を歩き続けた。道中、泉津漁港にて釣りをしたが結果はなんとキレイにボウズ。そんな我々に隣の方が魚を分けてくれた。この日もまた人とのつながりに感謝。この日の宿は大島公園の駐車場だった。

▶徒歩移動距離 16km

3日目

波浮港を目指して出発。この日は、森の中を切り開いて作った一本道を延々と行った。これだけ退屈な道のりだとどんな些細なことでも面白くなってくるから不思議なものだ。「クダッチ」という珍地名に

笑いつつ行くと急に目の前に海が開け、2人とも思わず叫び、走った。波浮港では貝の博物館「ばれいらめ〜」を見学した。その後は今晚の寝床探しだ。地図を頼りに行くとシャワー設備もある野営場を見つけた。この夜は公園にいた猫とあわせて、2人と一匹ですごした。

▶徒歩移動距離 18km

4日目

さすがに疲れも溜まってきたが、シャワー（もちろん水だが）を浴びてサッパリとしたところでやっとこさ出発。この日は大島の観光スポットである地層の断面を見ることがとりのみ目的だ。ハイテンションの2人はぐんぐん進み、いつのまにか予定よりだいぶ早く進んでいた。励ましあいながらの強行軍は、ついに元町港まで戻ってきた。やったね、伊豆大島1周達成！そして一日目と同じあずまやによるよると辿り着き、就寝した。この日の星空は格別だった。

▶徒歩移動距離 20km

5日目

朝、大島2度目の釣りへ。今度こそはと2人とも気合を入れて4匹釣り上げた。まずまずの釣果だ。その後、火山博物館を見学してお待ちかねの海へ。思いっきり遊んでそろそろ戻るかというときに海岸で見覚えのある人を発見。1日目に車に乗せてくださった方と再会することができた。つくづく不思議な出会いだったと思う。荷物をまとめて昼食をとり、惜しみながら大島を離れた。また来るからね！

いつの間にやら、熱海港へ。「都会だ……」と2人ともつぶやいた、と同時に思った……。なぜこんなにも熱海は坂と階段が多いのだろうか。往路は下りだけれど、復路は駅までに長い坂と階段を上らなければいけない。最後の最後まで汗びしょりだった。

こうして5日間の全行程が無事終わり、きつかったことも今では楽しい思い出となった。

▶徒歩移動距離 6km



熱海へ



反省

- 参加者が少なく、荷物の分担がきつかった。
- 経験不足と読みの甘さから時間の見積もりを誤り、走る羽目になった。
- 事前調査が役に立たず、野営する場所探しに非常に苦勞した。現地に行ってみるまでやはり分からない。
- 移動中にうまく食料の調達ができ、献立も充実させられた。

第15回 日本ジャンボリー に参加して

ボーイスカウト隊 副長 **高田篤人**

今年度のトピックスは、何と言っても第15回 日本ジャンボリー（以下15NJ）に参加したことです。準備から本番、そして今に至っても、多くの楽しみと、それを通して学んだことや反省を得ることができました。

今回の15NJには、神奈川連盟より28個隊（1個隊は40名）、その中で湘南地区からは「神奈川17隊」「神奈川18隊」の2個隊が派遣隊として編成され、私は17隊の副長として奉仕をしました。

派遣隊は、2月の説明会から始まって、面接会、派遣隊編成、2度の訓練キャンプを含む計6回の訓練集会を経て、8月1日～8月9日（8泊9日）静岡県・朝霧高原での本番という長丁場でした。逆に40名の新しい仲間と深く付き合うことができた、内容の濃い半年間だったような気がします。

感想や思い出はたくさんありますが、15NJで派遣隊が何をしてきたのかの一端を紹介すると、スカウトの皆はスカウト技能系・学習系・パフォーマンスなど参加型といった様々なプログラムに参加しました。15NJはこれまでの大会と変わって、ベンチャースカウトもVS班としてこれらのプログラムに参加しました。その他では、もちろん「ジャンボリー大集会」や宗教儀礼といったイベントもあり、皆楽しんでいましたが、ジャンボリーの醍醐味は何と言っても他地域・外国スカウトとの「交流」です。17隊では、私が子供の頃に所属していた愛知連盟・尾張北地区の派遣隊や、同じサブキャンプに配置された香港隊と隊同士での交流プログラムを行いました。スカウトはプログラム活動中にも個別でたくさんの仲間と話をする機会があり、帰着後報告会などの感想でも一番の思い出に「交流」を挙げるスカウトが多かったのが印象的です。

意外だったのは、（これも15NJから変わった点ですが）小6スカウトが光っていたことです。17隊にも3名の小6スカウトが参加していましたが、全員が優秀スカウト候補にノミネートされる程の活躍でした。当初は体力的・精神的に厳しいと考えていましたが、この考えは全くの誤り

JAMBOREE NEWS Issue.9 / 9.AUGUST.2010

PAGE 3



テントが張り巡らされた会場。



2日の開会式には皇太子さまが訪れた。



高田副長が宇宙飛行士の朝霧けんもスカウト。



岡田監督とスカウト、スカウトインタビュを語る。



北上山ロープウェイで多摩川を渡る。



カブ隊参加の隊員も全員、ジャンボリーへ参加した。



アーチェリーを体験し、約100項目に及ぶジャンボリー。



開会式、大集会、開会式で日本ジャンボリーが盛り上がる。



地域社会奉仕活動として、帰着後作業に取り組みました。

だったようです。小学生でも楽しさとやる気が勝れば、充分に長期キャンプを完遂できるのです。

「ジャンボリー」はスカウト活動の目標にはならないかも知れません。でも楽しいことは確かです。次回は（4年後ではなく）3年後2013年に16NJ、その後は5年後2015年に世界ジャンボリーが日本で開催されます。鎌倉5団のスカウトが一人

でも多く、このお祭りに参加してみたいと思ってもらえるように、その楽しさを伝えていきたいと思います。

最後になりましたがボーイ隊をはじめ団委員会、関係者の皆さまの多数の協力により、今回の15NJ派遣隊奉仕を全うすることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

15NJでは連日「ジャンボリーニュース」が発行された。下は8月9日の第9号。皇太子さまやサッカー元日本代表監督の岡田武史さん、宇宙飛行士の野口聡一さんらが激励に訪れた時の様子がレポートされている。さらに詳しい様子をご覧になりたい方は、<http://www.15nj.org/ver2>までアクセスを!